

大 学 図 書 館 問 題 研 究 会 京 都

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34
(Tel) 075-574-4118

京都橘女子大学図書館 田北十生気付
(Fax) 075-574-4124

熱のこもった第2回例会！

テーマ「大学図書館ホームページについて考える」

去る 2000 年 3 月 1 1 日（土）午後 2 時から立命館大学国際平和ミュージアム 204 号室で開催されました大図研京都支部第 2 回例会は、会場いっぱいの参加者を得ました。

図書館ホームページに対する関心の高さを示しているようです。立命館大学総合情報センターの井上雅人氏（京都支部委員）が講師でした。終了時間は、5 時でしたが意見が伯仲して、時間が足りないという感じでしたが、会場の関係で、続きは懇親会に移されました。ということで懇親会も大いに盛り上がりました。

全国大会のページを 「大図研京都」のホームページに作りました

是非見て下さいね！

全国大会ページの URL はこちら↓
<http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/dtkc.htm>

「大図研京都」ホームページは↓
<http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/>

メーリングリストに参加を！

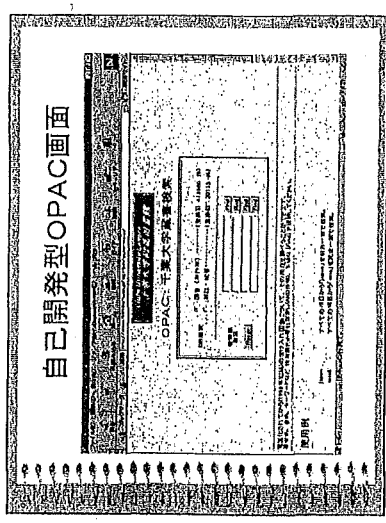
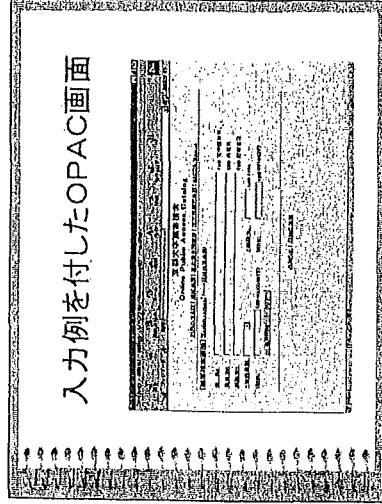
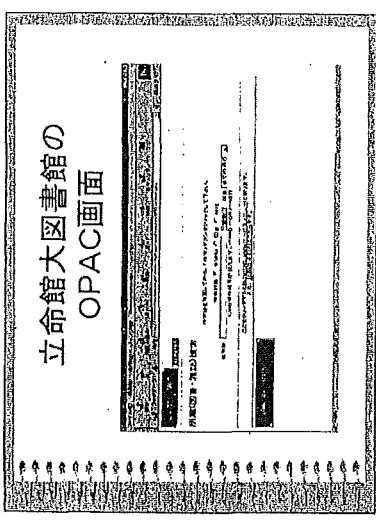
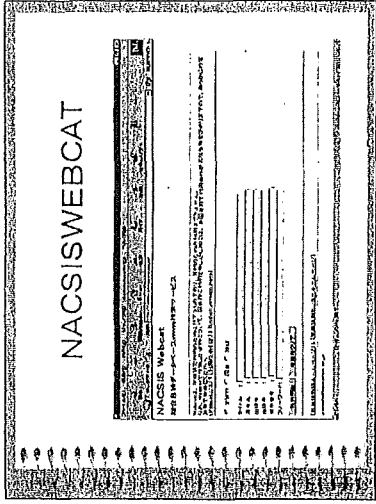
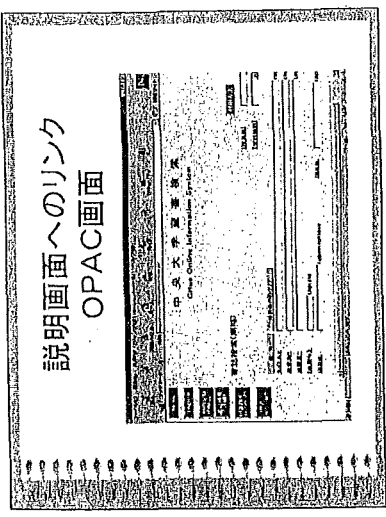
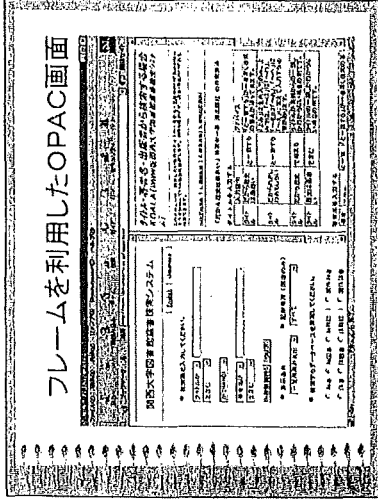
現在メーリングリスト参加者は、アドレスで 52 名になりました。
新規加入希望者は下記から申し込んでください。

<http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/ml.htm>

目次	第 2 回例会の報告・・・・・・・・・・・・・1 頁
	全国大会のページを大図研京都のホームページに・・1 頁
	メーリングリストに参加を・・・・・・・・・・1 頁
	例会レジメ「大学図書館のホームページを考える」・・2 頁
	例会感想文・・・・・・・・・・・・・6 頁
	京都橘女子大学図書館ホームページから蔵書検索・・・・・6 頁
	便利で優しいホームページを作成するためのアイデア集め・・・・・・・・7 頁
	第 7 回京都支部委員会の報告・・・・・・・・8 頁
	近畿 4 支部新春合同例会に参加して・・・・・9 頁
	会費納入のお願い・・・・・・・・・・・・・9 頁
	数珠つなぎ（第 48 回）・・・・・・・・・・10 頁

ご意見・ご要望、投稿はメール、又は FAX で編集気付（kazuodesu@ma2.justnet.ne.jp）田北まで

(編集者の都合で、変更あることをお知らせします)



Web版OPACの検索行動

1. 大多数の利用者の検索パターン
2. OPACソフトの問題

RUNNERSデータベース件数

データベース内容	1999年8月現在
遊書関係	
丸善	582,084
テウカ	92,553
権東	67,515
日販、TRC	206,328
紀伊国屋書店	3,069
蔵書関係	
和・洋図書	1,127,072
和・洋雑誌	35,037
併録誌カレントコンテンツ	8,868,238
合計	10,981,896

Web版OPACの検索

1. 書名からの検索
2. 著者からの検索

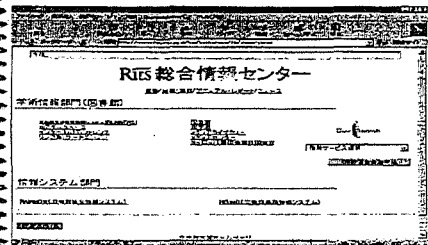
Webサイトの構築と運用 (立命館の場合)

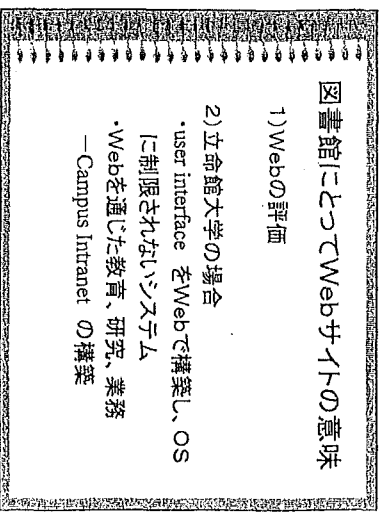
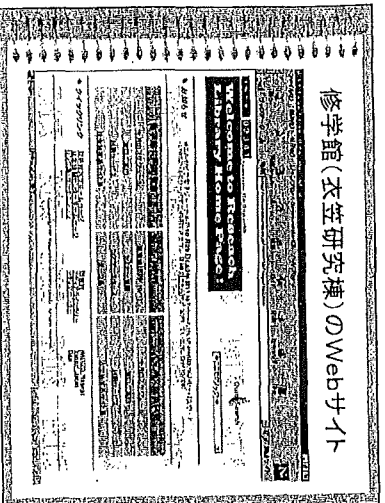
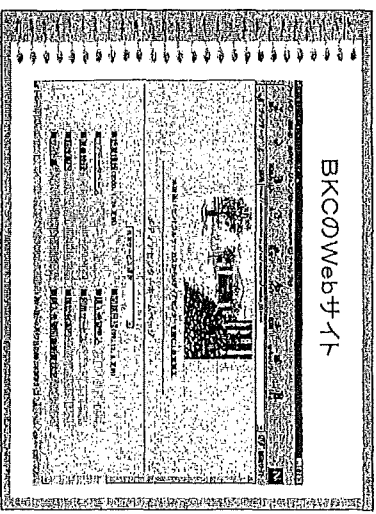
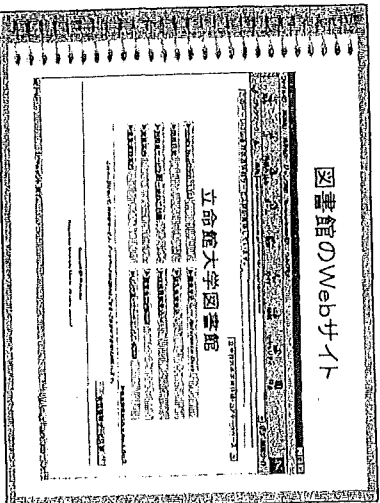
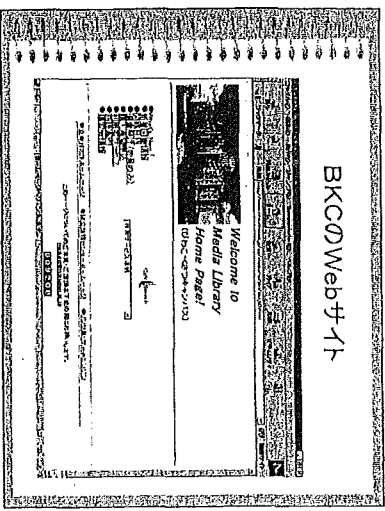
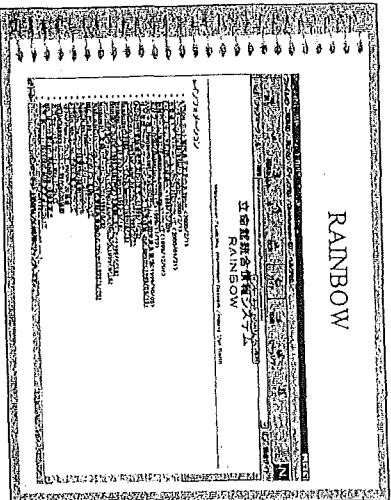
- ・Webサイトの構築、コンセプト
- ・組織、予算
- ・維持過程
- ・技術的問題
- ・将来展望
- ・その他

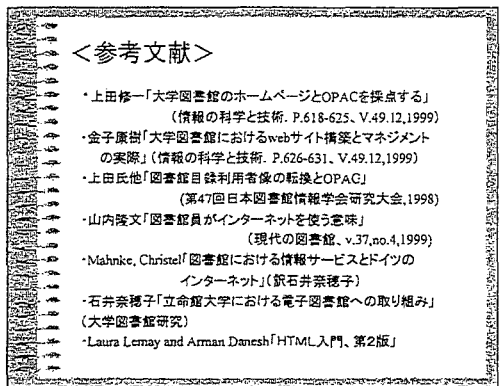
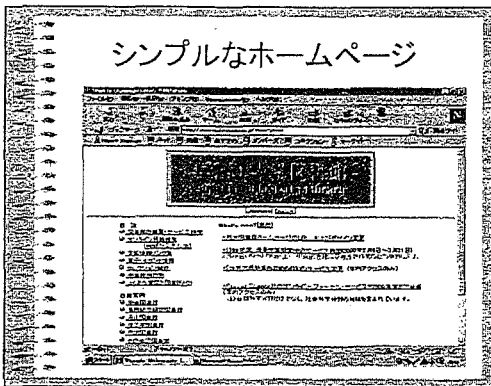
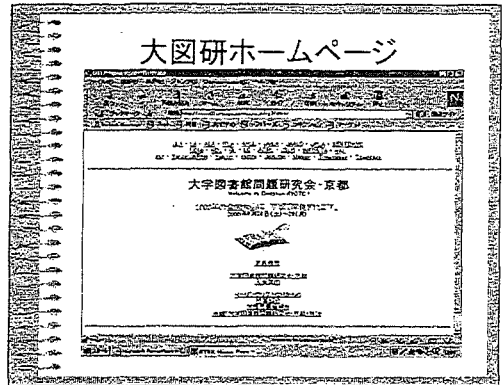
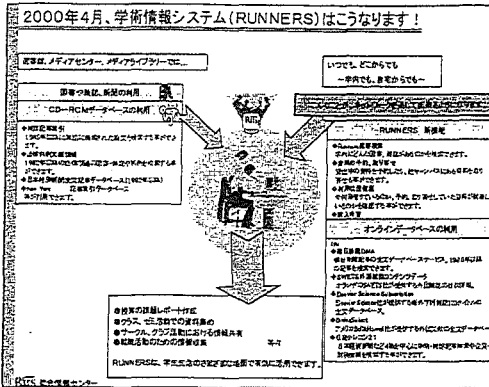
検索エンジンを利用したWeb版OPAC (立命館大学の試み)

- ・全文検索エンジン導入のねらい
 - ... 検索もれを防ぐ
 - 将来的には学内で生成、蓄積される情報をも検索の対象とする
- ・課題としての検索スピード

立命館大学総合情報センター のWebサイト







第2回例会「大学図書館のホームページを考える」に参加して（感想文）

●村上健治（大阪大学附属図書館）

大学図書館のホームページからは、図書館の所在地、交通手段といったことから蔵書検索システムの利用まで、さまざまな情報を得ることができます。これらのサービスを整理していくとどのようなところに集約されていくのか？ ということに興味があり、例会に参加しました。

報告及び議論の中で印象に残ったのは、ホームページは、図書館の情報を公開するばかりではなく、利用者からの疑問・要望に答える窓口の一つであること、他所からリンクされる情報をもつべきであること、蔵書検索システムで資料の所在が検索できても、実際に利用できなければ意味がないこと、などでした。ホームページを通した図書館サービスのあり方について考えさせられることの多い例会でした。

便利で優しいホームページを作成するための アイデア集め！

大 網 浩 一

実をいうと私は、日常生活においてあまりインターネットを活用できていません。私的には今年の1月、自宅のパソコンをようやくインターネットに接続できるようになったばかりですし、職場でも普段よく利用するのはメールくらいです。Web をまともに使ったのは、情報探索入門の演習課題を作るために、「Web で何ができるのだろうか？」と調べた時くらいでした。

先頃、「大学図書館のホームページを考える」というテーマで例会が開かれましたが、それと前後して「どのようなホームページが便利で優しいホームページだろうか？」と思い巡らすようになりました。しかしながら才乏しき身としては、自らのアイデアには期待できません。というわけで最近、便利で優しいホームページのアイデアを求めるために、Web を使い始めています。

そこで今回はそのことについて書き記したいと思います。特に便利なサイトの紹介はありませんが、ご了承くださいませ。

あまりに有名ですすでにご存じかと思いますが、下記のような大学図書館のリストが公開されています。

タイトル：Jump to Library in Japan

URL： <http://ss.cc.affrc.go.jp/ric/opac/opac.html>

責任者：林 賢紀(農林水産研究情報センター)

リストを使えば、かなり効率よくブラウジングしてゆくことができます。

とはいえ、まだそれほど多くのホームページに目を通している訳ではありませんが、その中でも今一番心惹かれているホームページが、北海道大学附属図書館のホームページです。

タイトル：Hokkaido University Library

URL： <http://www.lib.hokudai.ac.jp/>

責任者：北海道大学 附属図書館

デザインにおいても、提供されているサービスにおいても、好感が持てます。

デザインにおいては、好みの介入する余地があると思われませんが、項目が適度に展開されていて、どこに何があるのか、分かりやすいと感じます。トップページの項目を極端に減らしてしまうと、どうしても必要としている情報がどこに位置づけられているのか、が見えにくくなってしまいます。さらに"ホームページの構成"というページが、目次として全体像を表す機能を果たしています。個々のサービス項目もさることながら、その見せ方・位置づけ方にバランスの良さを感じます。

"資料案内"の元に各種リストも充実し、OPAC との連携も図られています。また、図書系職員による研究会によってオンラインジャーナル集が作成されています。

タイトル：Online Journals

URL : http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp/online_journal/index.html

この雑誌リストでは所蔵情報(NACSIS-Webcat)、目次情報(NACSIS 目次速報 DB など)へのリンクが用意されているようです。また、このページはいくつかの大学図書館のホームページからリンクが張られています。ネットワーク環境においては、必ずしも個々の機関が重複してリストやデータベースなどを構築する必要はなく、生産効率の面からもツールの分担構築が望まれます。

とはいえ、各機関とも未だ手探りの状態にあり、現段階においては分担構築が進むとは考えにくいです。そこで、せめて各機関において効率よくツールを構築するためには、他機関のホームページをチェックすることがもっとも有効な方法だと思われます。たとえば、いくつかの大学図書館のホームページを回れば、無料で利用できる DB のリストを簡単に作ることができます。これは、せめて他で実現されているサービスはうちでも実現しよう、という発想です。

以上、少しあこぎな方法ですが、いかがでしょうか。ただし単なるいいとこ取りで終わると、誠意に反しますので、浮かした労力でオリジナルを追加したいものです。そうすれば、総体としては前進したことになるのではないのでしょうか。

(おおつな こういち 京都大学附属図書館)



第7回京都支部委員会報告

2000年3月7日(火)同志社大学クローバーハウス(午後7時～9時)
出席:篠原、中嶋、呑海、田北、井上、大館、大綱(オブザーバー)

【報告事項】

1. 会員情報 ・新規加入 1名
2. 財政情報 ・前回から変動なし、1999年度会費納入者 78名(納入率 85%)
3. 「ゆりかもめ」運用状況 ・加入者 51名

【審議事項】

1. 今年度の活動について
 - (1) 第2回例会
 - ・テーマ「大学図書館ホームページを考える」
 - 1) 参加申込状況 ・支部委員等 6～7名 ・一般会員 6名
・非会員 3名
 - 2) プログラム

報告	14:00 - 15:00	休憩	15:00 - 15:15
質疑応答	15:15 - 17:00		
 - 3) 役割分担 開会挨拶-篠原、司会-大館、会計・受付-中嶋・大綱、録音-大館、写真-呑海、看板-田北、原稿依頼-田北
 - 4) 例会終了後、会場近くで懇親会
 - (2) 第3回例会
 - ・当初予定していたテーマ「ネットワーク管理」は講師を確保する見通しが立たず、先送りにする。
 - ・代わりに新設の図書館見学会を5月に行う方向で準備する。
2. 支部報について
 - (1) 3月号について
インターネット活用術 3(京都大 大綱さん) / 数珠つなぎ(京都大から)
3月例会報告
 - (2) 4月号について 3月例会感想 / 数珠つなぎ(ジュンク堂書店から)
 - (3) 5月号について 数珠つなぎ(京都大学から)
 - (4) 6月号について 数珠つなぎ(京都大学から)
 - (5) 7月号について 数珠つなぎ(紀伊国屋書店から)
3. 支部報復刻版の発行について
 - ・原稿のスキナー読み取りを業者に任すにあたっての見積もりをとる。
4. 京都支部ホームページについて
 - ・効果として、メーリングリストの加入者が4名増加。
 - ・内容の更新をこまめに行う。
5. 大会開催にあたっての常任委員会からの要望事項について
 - (1) 保育所開設
 - ・対象者の人数が把握できないと対応できない。次回全国委員会で各支部ごとの希望者を調べてもらうように要望する。
 - (2) 聴覚障害のある参加者のためのノートテーカーの配置
 - ・実現の方向で取り組む。
 - (3) 各分科会の報告者、コメンテーター等を開催地で手配する
 - ・近畿4支部の中で、候補者をリストアップしていく。
 - (4) 講演会講師について
 - ・大会実行委員会で選定中。
 - (5) 大会準備のための連絡体制
 - ・メーリングリスト「ゆりかもめ」に常任、全国委員を登録する。
 - (6) ネットワーク環境の構築
 - ・実現の方向で検討していく。
 - (7) 資料配付用紙袋の提供業者について
 - ・確保する。
6. 次回支部委員会予定 4月11日(火)
次回大会実行委員会 3月11日(土)
12:00～13:30(立命館大学平和ミュージアム)

(次ページからの続き)

富田先生は、「科学史」ゼミ終了後、「大学の図書館」に寄稿された文*(1)の中で、自然科学の発展とは何か、図書館の本質とは、図書館員の主題研究はなぜ必要か、どんな努力が必要か、専門図書館における”分類”のもつ意味、新しい研究創造に必要な古典資料の意義。。などについて非常に示唆に富んだ内容を書いておられる。

これに対し「誰も反論、提言をしてこなかった」と大図研会員の心意気のなさ？をいつも嘆かれているが、いつか少しでも面目を果たして図書館職員を終わりたいと思っている。

世界に私の図書室にしかない科学史上重要な貴重図書*(2)の一部は、地鉦教室の教員であった清水大吉郎先生によって解説書*(3)がまとめられたが、未だ多くの貴重書が未収録のままである。

なんとか清水先生がお元気なうちに、共同で解説書的にまとめられないかと先生と相談中である。

上記の2件を果たし、科学史ゼミのあとも仲間で続いている「テーマをもった旅」でマサチューセッツへ「ライマンツアー」をくめないか、と夢見ている。

もう、図書館職員としての退職もそう遠くはない、急げ！！

* (1) 「大学の図書館」10巻4号(1991/4)

”大学図書館職員の主題研究に期待する” 富田克敏

* (2) リンネ「自然の体系」(Systema naturae,1735) 初版本、

アグリコラ「デ・レ・メタリカ」(中世ヨーロッパの鉦山業の様子を詳細に記し、292枚の木版画がそえられた技術史上重要な文献) 初版本

プリニウス「博物誌」(L'Histoire du Monde, 1566 仏訳) 8年前初めて完全邦訳された。

「Neues Jahrbuch」 始祖鳥の化石が初めて記された雑誌

「Philosophical Transaction Royal Society London」(1665-) 第1巻から世界最初の学術雑誌などなど

* (3) 「古典にみる地学の歴史」清水大吉郎著 東海大学出版会 1996

近畿4支部新春合同例会に参加して(感想文)

●天野絵里子(京都大学工学部電気系図書室)

本屋と云えばジュンク堂という感覚で育ちました。出身が兵庫県なもので。高尚な、おそれ多いイメージを持っていたのですが、最近年大規模店が次々に目につくようになってから、そのような店はあまり个性的でなく、どこが始めたかもわからない程どこにも喫茶コーナーがあり、本好き・本屋好きには、あまりおもしろくない事態ではあります。

ブランドイメージが下がってしまったというか・・・経済的に業界内で厳しい状況、というのは図書館も同じなのですが、中でも個性を出して他より抜きんでてイメージを保つ方が、楽しいですね。大規模店も次々出していかないと生き残れないからジュンク堂さんも頑張っておられるのかと思ったら売り上げはあるとのこと。本屋さんの台所事情は数々あると思うのですが(図書館も)小説に描かれて残っていくような、そこにしかないイメージを保つことが重要性をもてるかどうか・・・考えてしまいました。

----- 会費納入のお願い -----

1999年度会費未納の会員さんは、至急会費の納入をお願いします。
会費についての問い合わせは財政担当支部委員の中嶋スエ子さん、又は最寄りの支部委員又は、編集子までお願いします。

